

早稲田大学 オープンカレッジ 2017年10月14日

みなとみらい21と横浜市

【寄藤 昂】

1. 横浜という都市

1.1 概要

横浜市は「日本最大の市」である。

人口約 370 万人、四国 4 県の合計と同じ

面積でも、神奈川県在全市町村で最大

現在も人口増加中

ただし、人口規模の割に「都心」は小さい

また、昼間人口は夜間人口より 40 万人少ない

1.2 “従属都市” 横浜の歴史

江戸時代末までは小さな「漁村」

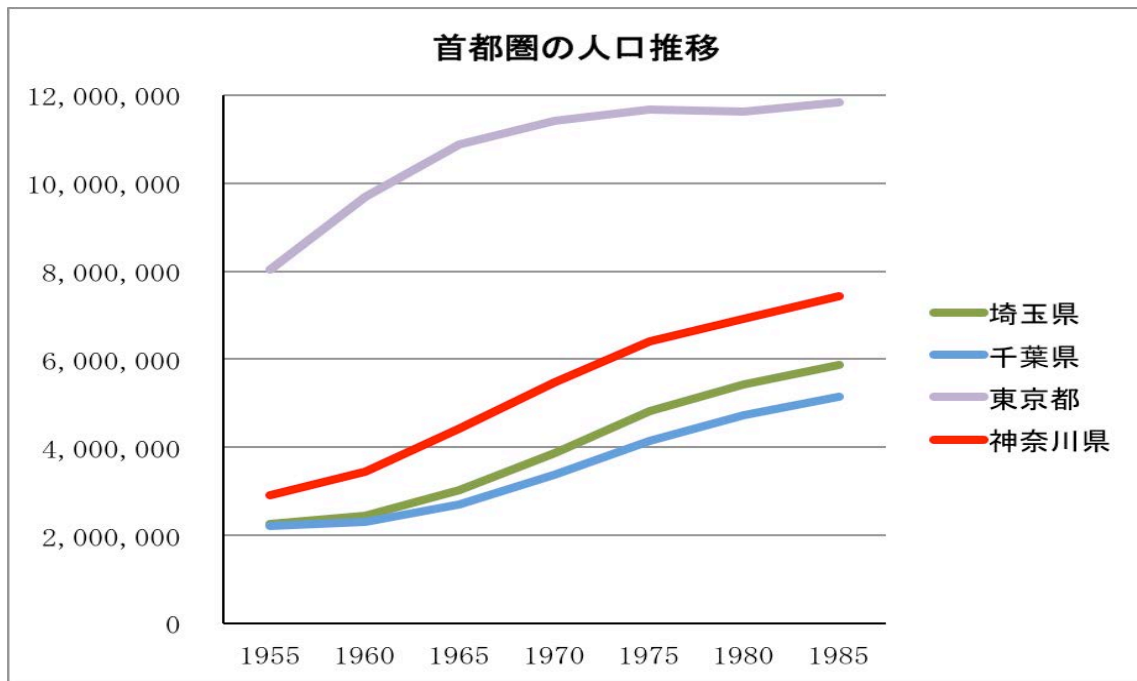
外国人を“江戸に入れない”ための「開港場」

富国強兵の“現場を担う”「重工業集積地」

米軍占領期、東京に代わって大規模な「接收地」

高度経済成長後期、東京から“溢れる人口”の「受け皿」

1.3 高度経済成長期の人口推移



1.4 流出と流入：通勤通学人口の流れ



2. 「みなとみらい21」計画

2.1 「みなとみらい21」とは

横浜市が以下の目的で進めている臨海都市再開発事業。

- 横浜の自立性を強める
- 横港湾機能の質的転換を図る
- 首都圏の業務機能を分担する
- 横浜駅周辺と関内地区を結び都心を一体化する

2.2 計画の概要

就業人口 19 万人

居住人口 1 万人

開発面積 186 ヘクタール

事業区域

中央地区 141 ヘクタール

新港地区 41 ヘクタール

横浜駅東口地区 4 ヘクタール

事業期間 1983（昭和 58）年～

2.3 事業の状況

■土地区画整理事業 2011（平成23）年3月で終了

宅地	87ヘクタール
道路、鉄道	42ヘクタール
公園、緑地	46ヘクタール
ふ頭	11ヘクタール

■街区開発（平成29年8月1日現在・本格利用）

総宅地面積 約87haについて

	開発対象	竣工	建設中	計画中	計
面積	約76.0ha	約57.6ha	約4.7ha	約4.9ha	約67.2ha
進捗率	約87.4%	約66.2%	約5.4%	約5.6%	約77.2%

■最近の状況

	事業所数	就業者数	来訪者数
2016年	1,780	103,000	8,100万人
2015年	1,770	102,000	7,600万人
2014年	1,730	98,000	7,600万人
2013年	1,720	93,000	7,200万人
2012年	1,520	89,000	6,700万人

* 数値はいずれも概数

2.4 開発の歴史



1983



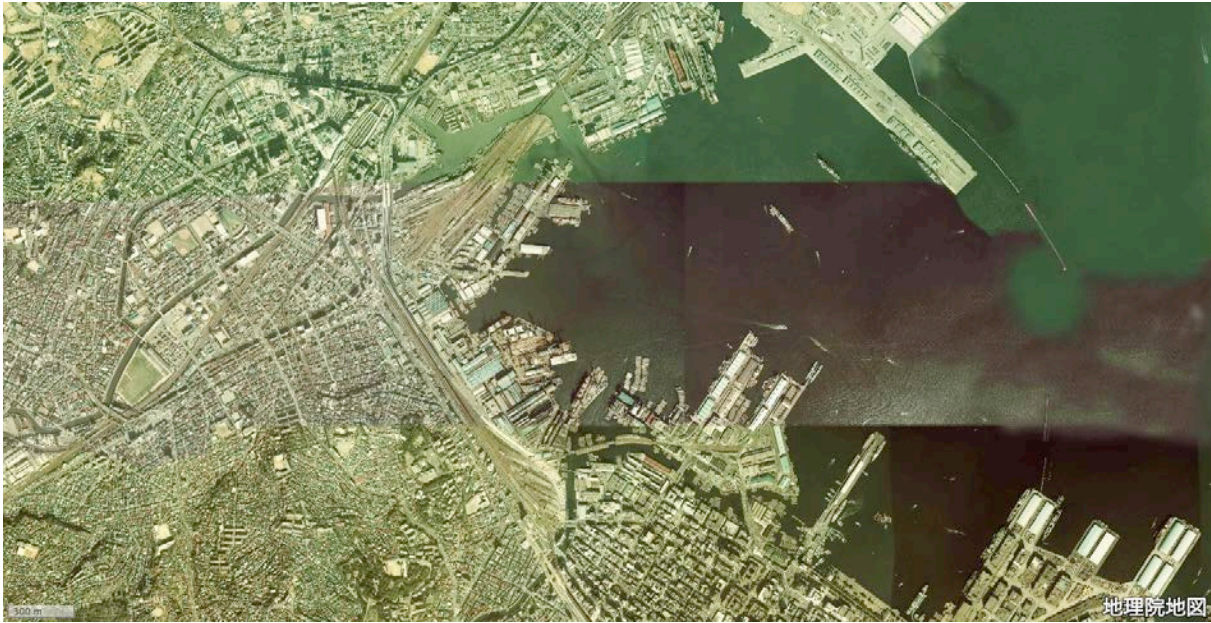
1989



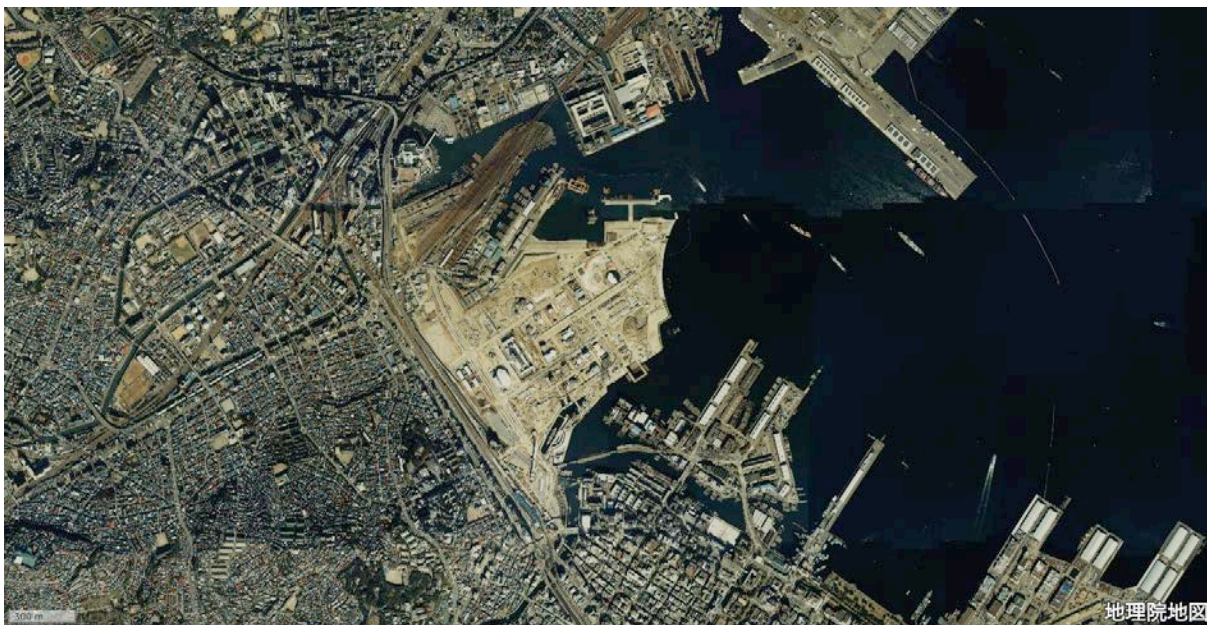
1993



1997



1970 年代



1980 年代



2008 年頃



最新（地理院地図）

3. みなとみらい21事業の成果

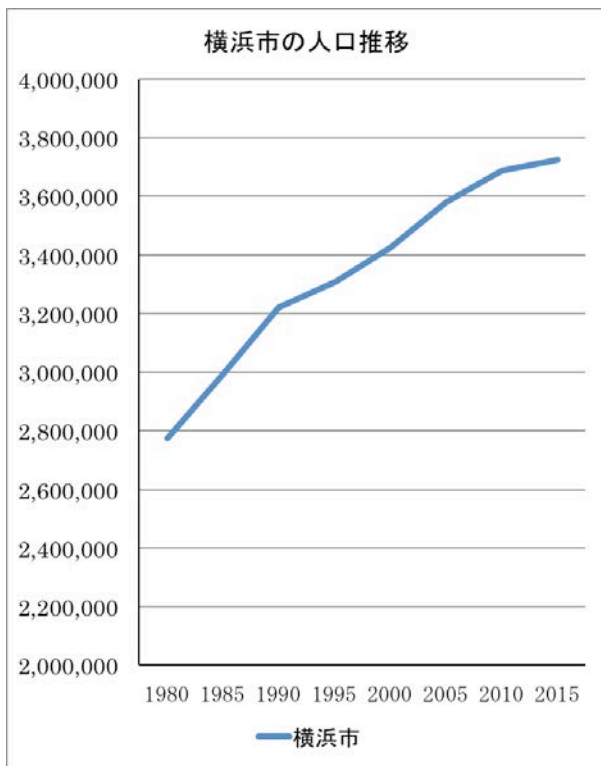
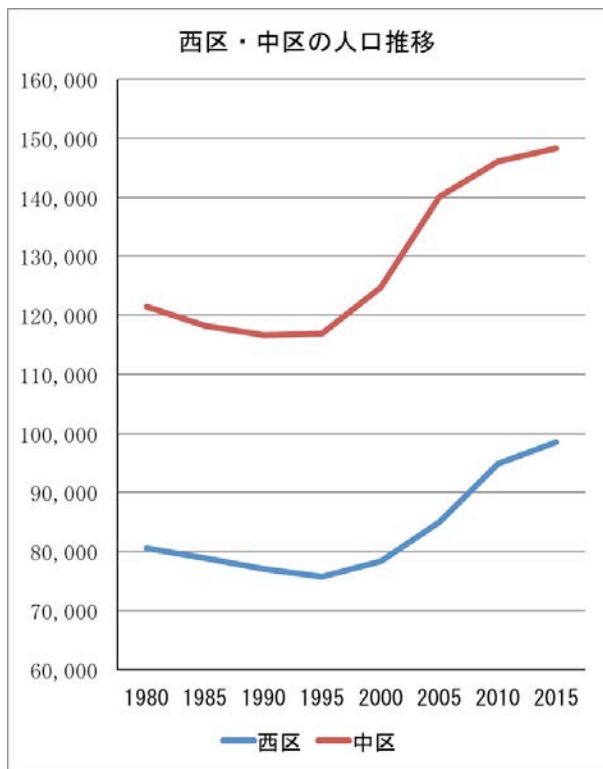
3.1 都心居住人口は増加

西区

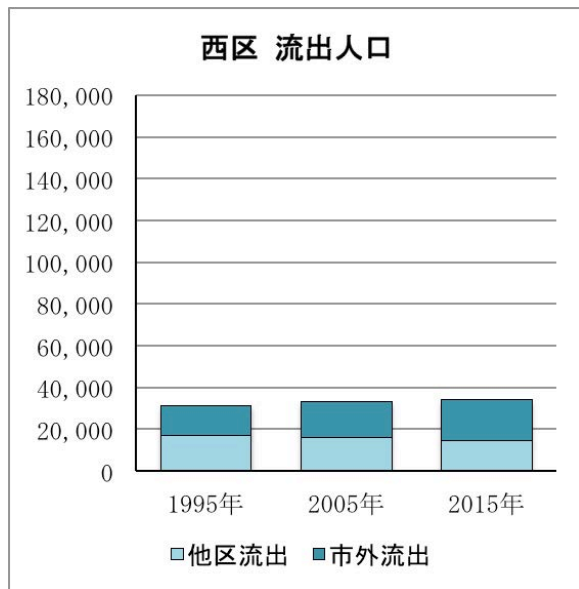
	1995年	2005年	2015年	増減	増加率%
就業人口	154,011	165,178	183,315	29,304	19.03
常住人口	75,209	83,087	98,532	23,323	31.01

中区

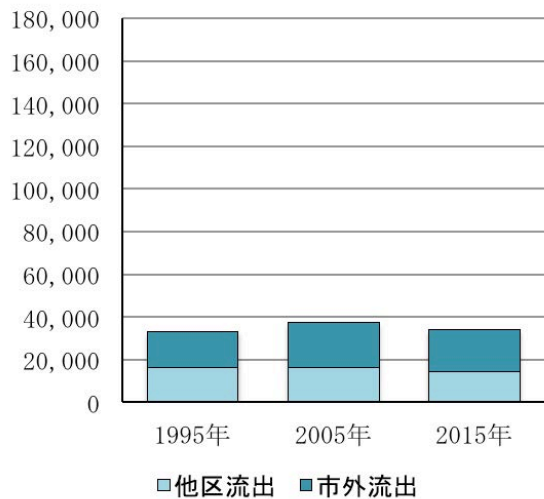
	1995年	2005年	2015年	増減	増加率%
就業人口	256,701	250,485	239,067	▲ 17,634	▲ 6.87
常住人口	116,722	136,927	148,312	31,590	27.06



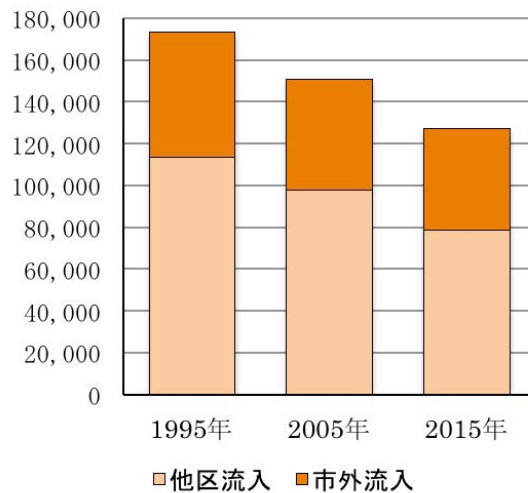
3.2 西区・中区の人口流動は



中区 流出人口



中区 流入人口



3.3 10万人は“どこから”来たのか

みなとみらい21の地域内就業者は約10万人に達したとされ、これはこの地区においては明らかな“純増”であると考えることができる。

しかし、西区・中区全体で見ると、常住人口が5万人以上増加（1995-2015）した一方で、就業人口は僅か1万人強の増加（同）に止まっている。

このことは、みなとみらい21に発生した10万人の就業者の多くが、他市区町や他県から移動したのではなく、同じ西区・中区の内部移動であったのではないかと示唆している。

実際に、かなり大規模な本社オフィスの導入となった横浜銀行本店は、中区内からの移転である。

今後、京急グループのように、東京にあった本社を移転してくるケースがどれだけ出てくるかが、新たな「都心」としての成長の鍵となろう。

4. 横浜のイメージ

4.1 ミナト・ヨコハマ

日本には「みなと街」と呼ばれる都市が多くあり、中でも、横浜、神戸、函館などが知られている。

この3都市に長崎を加えると、「歴史的な開港場」「外国人居留地」といった共通のイメージを持つことがわかる。

最初の「開国」以来、他に新潟、大阪も正式に開港地となっていたのだが、上記の都市群のような一種の“あこがれ”を込めて語られることが無いのは、やはり「居留地」の有無が影響しているであろう。

横浜の場合、さらに第二次大戦後の米軍の駐留が影響している。市民にとっては辛い時期でもあったのだが、ファッション、ポピュラー音楽などの面で、ある種若者を引きつける街でもあった。

以上の背景から、敢えてカタカナで書かれる「ヨコハマ」は、旧来の“波止場”、“みなと”、さらにはそこからくるある種“猥雑で危険”といった場所以上に、スマートでアメリカナイズされた街として描かれることも多かった。

ブルーライト・ヨコハマ（歌謡曲）、よこはまたそがれ（同）、港のヨーコ・ヨコハマ・ヨコスカ（同）、私立探偵・濱マイク（映画・ドラマ）、悪魔のようなあいつ（ドラマ）、逃げるは恥だが役に立つ（同）などのヒット作品にも、こういった要素が窺える。

4.2 台地のよこはま

1980年代以降、東京都への人口流入が止まった後も、横浜市では人口が増え続けた。

その中心となったのが、東急グループが鉄道新線の建設と宅地開発を連動させて進めた「東急多摩田園都市」であった。

この開発では、いわゆる「横浜らしさ」といった要素は一切考慮されなかった。むしろ、川崎市から町田市に至る沿線全体を東京の世田谷・成城あたりの延長と位置づけ、全く新しい郊外住宅地の創造を目指しており、当時マーケティングの最先端とされたパルコ・グループも、この地域を「第三山の手」と命名していた。

1983年から85年にかけて放送されて大ヒットした「金曜日の妻たちへ」三部作が、田園都市線沿線を主要なロケ地としたこともあって、地域の人気は極めて高いものとなった。

東急多摩田園都市による人口急増は、横浜市にとって特に小学校の急激な新設ラッシュなど大きな負担となった。

また、流入人口の多くが市の北部から東京の渋谷に向けて通勤することで、海側にある旧来の横浜都心とは無縁の生活を送ることとなり、自他共に「横浜都民」と称する状況であったことも問題を複雑にした。

小学校などの公共施設の整備負担を巡って、在来市民で構成される市議会と東急側が激しく対立し、整備が遅れたことなどもあって、北部の市民の側にも市議会・市役所への不信・不満が積もった。

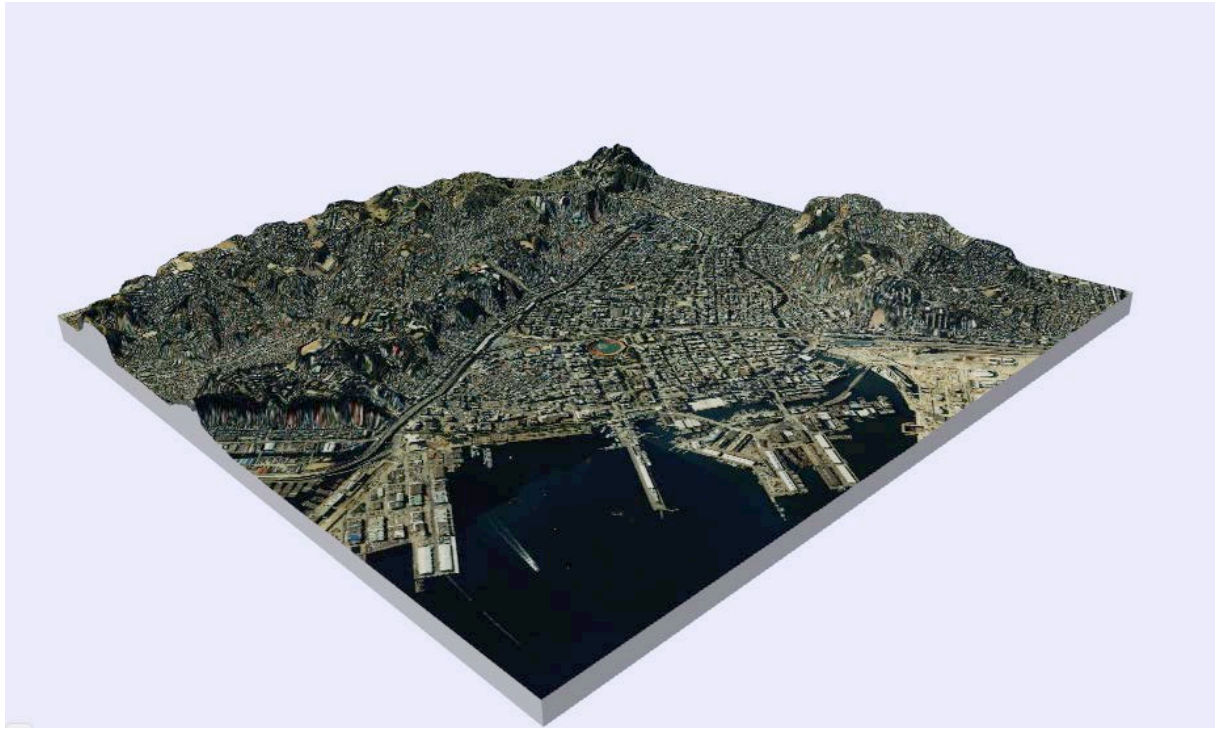
田園都市や、遅れて市が整備した港北ニュータウンと横浜都心を結ぶ地下鉄の建設、新たな都心となるみなとみらい21の開発は、横浜市としての一体感を再生しようとする試みでもあった。

4.3 天国と地獄

横浜臨海部の中心であった「関内・伊勢佐木町」は、もともと大岡川の河口に位置した低湿地上に、低い人工島のように造成された地区である。北側には野毛山があり、南側は断層崖で区切られ、台地の上には山手の旧西洋館や学校がある。

この横浜の地形の特徴を見事に取り込んだのが、黒澤明監督の映画「天国と地獄」であった。

海外公開に際して付けられた英語タイトルも“High and Low”であり、地形条件とそこに済む人々の社会階層とを象徴的に表す作品であった。



映画「天国と地獄」では、台地の上に被害者の白亜の豪邸がそびえる地区を浅間台、麻薬と暴力の匂いに溢れ犯人が徘徊する地区を大岡川沿いの黄金町としている。(実際は黄金町から浅間台は見通せない)

日ノ出町から黄金町に至る大岡川沿いの地区は、かつては映画のイメージに近い“怪しい飲み屋街”だったが、現在は市と京浜急行、地元商店会などの協力で、制作スタジオやイベント・スペースなどが並ぶアートの街に生まれ変わっている。



高架下スタジオSite-A ギャラリー	日ノ出スタジオ I 棟 / II 棟1 / II 棟2 / III 棟
高架下スタジオSite-B カフェ	日ノ出ステップ
高架下スタジオSite-C 工房	Space F
高架下スタジオSite-D 集会場	小車スタジオ
東雲スタジオ A / B	かいだん広場
1の1スタジオ	西倉建築事務所
初音スタジオ	Kogane-X Lab.(初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会+横浜市立大学)
MOMO	
ハツネウィング	高橋ビル
ハツネハウス	ハツネテラス
ハツネキューブ	八番館
黄金ミニレジデンス	ヤグチレジデンス
黄金スタジオ	大平スタジオ
黄金町エリアマネジメントセンター事務局	USEDセレクト子ども服 クロアック
長者町アートプラネット (CHAP)	大平荘スタジオ
	Full House

横浜市内では、もう一つの天国と地獄を見ることが出来る場所がある。それは、横浜スタジアムの近く、中華街入り口のすぐ西側、高速道路の高架を潜った先にある通称「寿」地区（山谷、釜ヶ崎とならぶ3大ドヤ街の一つと言われた）と、そこから見上げる山手の高台（西洋館やフェリス女学院、外人墓地などのある）である。

「寿」は、横浜市中区の寿町・松影町・扇町を含む範囲の俗称である。1955年に米軍から返還された後、職業安定所の移転にともなって主に港湾荷役の日雇い労働者の街として栄えたが、海運のコンテナ化、産業構造の変化などで日雇い労働の仕事も激減、現在では貧困高齢者の街となっている。



古めの簡易宿泊所の宿泊料金（吉田忍, 2011）



外交官の家（山手西洋館）

おわりに

先にも述べたように、横浜は「東京の犠牲」とも言うべき苦難を、独自の魅力に取り込むことで乗り越えてきた歴史をもっている。

横浜市の特に臨海部は、歴史的にも文化的にも非常に面白い街である。そこで整備が進むみなとみらい21も、言わば東京への抵抗から始まったプロジェクトであったが、見方を変えれば実に壮大な「実験」であるとも言える。

当初は「本社機能の誘致」に強く拘っていた横浜市も、近年では、研究開発やデザイン、教育・研修などの専門機関・施設、さらには様々なイベント施設も視野に入れるように変わってきている。

実際、背広姿の中高年男性ばかりが行き来する「第二の丸の内」よりも、多様性と刺激に満ちた新たな“都心”の方が魅力的であり、その結果は「来街者の数」となって現れているのである。

資料

横浜市役所 都市整備局みなとみらい21推進課

<http://www.city.yokohama.lg.jp/toshi/mm21/>

横浜市役所 港湾局みなとみらい21

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kowan/business/mm21/>

横浜観光情報

<http://www.welcome.city.yokohama.jp/ja/>

みなとみらい エリアマネジメント

<https://www.ymm21.jp>

黄金町エリアマネジメント・センター

<http://www.koganecho.net>

国土交通省国土地理院 地理院地図

<http://maps.gsi.go.jp/>

政府統計の総合窓口

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/eStatTopPortal.do>

寿町のドヤ街はなぜ形成されたか(吉田忍,2011)

http://hamarepo.com/story.php?page_no=0&story_id=657